様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：８２６７４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１２４１８

研究課題名（和文）痛み行動観察尺度：日本語版DOLOPLUS-2の臨床への普及に向けて

研究課題名（英文）Clinical Utility of the Japanese-DOLOPLUS-2 toward innovation

研究代表者
大村　千晶（安藤千晶）（Ando-Ohmura, Chiaki）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員

研究者番号：６０６４５９１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究者は自ら痛みを訴えられない高齢者のための痛み行動観察尺度:日本語DOLOPLUS-2尺度の臨床への普及に向け、尺度の開発過程の検討、また熟練看護師らにインタビューした結果、「いつもの状態」をベースラインとして評価できる在宅での活用が明らかになった。さらに全国調査を実施し9割の訪問看護師が認知症高齢者の疼痛マネジメントに自信がないと回答し、改めて教育の必要性が明らかとなった。「高齢者の非がん性慢性疼痛のケア」に焦点を当て、臨床家と共著で論文投稿することで理解を深めた。今後は訪問看護師を対象とした痛みの表出が困難な高齢者の慢性疼痛に関する教材作成に向け、フローチャートの作成を行っていく。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究で得られた知見を基に「認知症高齢者の苦痛・苦悩を軽減する～アセスメントと支援のポイント～」としてまとめた(2023年7月コミュニティケア)。痛みをアセスメントする際にも第一に認知機能障害に伴う生活障害の程度を見極めること、またデルマトーム・痛みの分類など慢性疼痛に関する知識、認知症高齢者のPathwayの特殊性、さらに在宅認知症高齢者の疼痛評価の特徴と支援のポイントをまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：Researchers examined the development process of the Japanese DOLOPLUS-2 scale, a pain behavior observation scale for elderly people who cannot voluntarily complain of pain, and conducted interviews with experienced nurses to spread the scale to clinical practice. It became clear that it can be used at home to evaluate the "usual state" as a baseline.In addition, a nationwide survey was conducted, and 90% of visiting nurses answered that they were not confident in pain management for the elderly with dementia, revealing the need for education.Focusing on Care for non-cancer chronic pain in the elderly, I deepened my understanding by submitting some manuscripts with practitioners.In the future, we will create a flow chart for teaching materials about chronic pain in the elderly who have difficulty expressing pain for visiting nurses.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：高齢者　慢性疼痛　訪問看護師　疼痛マネジメント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）　　安藤　千晶

１．研究開始当初の背景

研究者は平成 17 年から自ら痛みを訴えられない高齢者のための痛み行動観察尺度:日本語 DOLOPLUS-2 の日本語版作成と妥当性を検証してきた。今後は尺度の臨床への普及が課題となっていたが、どのセッティングで適応が可能か明確でない状況であった。また「認知症高齢者の疼痛マネジメント」として考える際に、【認知機能障害】【高齢者】、さらに【疼痛マネジメント：アセスメントーケアー評価】として考える必要があったが、それらがどのように関連をしているのか整理されていない状況であった。

２．研究の目的

本尺度が活用できる Setting を検討し在宅での活用が望まれることが明らかになったため、本研究の目的は以下として実施した。

1）訪問看護師が行う認知症高齢者の疼痛マネジメントの実態を明らかにすること。
2）訪問看護師が認知症高齢者の疼痛マネジメントを実施する際の困難感、知識、自信について明らかにすること。
3）急性痛ではなく高齢者の慢性痛に焦点を当て慢性痛の看護実践について明らかにすること。
4）熟練看護師だけでなく、どの看護師でも対応でききるように教材ならびにフローチャートを作成すること。

３．研究の方法

熟練訪問看護師を対象としたインタビューを実施し、その結果明らかになった困難感に関する項目について、全国の訪問看護師を対象とした質問紙調査を実施した。また国内外の文献検討を行ったが、高齢者の慢性痛への看護について明確な内容が得られなかったため、実践知を集約すべくはじめに事例としてまとめた。以上から訪問看護師を対象とした「痛みの表出が困難な高齢者（難聴・失語・せん妄を含む）慢性疼痛の看護」に関する教材・フローチャートの作成を、数回の会議により認定看護師・専門看護師らとともに行った。

４．研究成果

主に以下 4 点の成果が得られた。

1）日本語版 DOLOPLUS-2 の在宅での活用方法として、以下の点が明らかとなった。
・「いつもの状態」と異なるかどうかを判断できるためには、普段からその人の 24 時間の生活行動をきちんと把握しておくことが重要である。
・この尺度を用いて点の状態である情報をチームメンバーで「線」にした上で、薬剤の効果や量を検討する際に活用する。
・次の訪問までの観察ポイントを家族・介護職に伝える際や、家族や介護職から情報を引き出し「同じ観察ポイントで継続的に」評価する際に活用する。

3）全国の訪問看護師を対象とした質問紙調査で、知識と信念に関するステートメントの平均スコアは 18 点中 14 点で、より多くの疼痛管理トレーニングを受けた回答者は、トレーニングを受けていない回答者よりも知識に関する合計スコアが有意に高くなった。 95%の看護師が認知症高齢者の疼痛 マネジメントを行う際に自信がないと回答した。そのため新たな教材・フローチャートの作成の必要性が明確になった。

3) 高齢者の慢性疼痛の看護が国内外で明確でなかったため事例としてまとめたことで、優れた実践知を言語化することができた。その中でも慢性疼痛を持つ患者に対し、看護師らはケアリングを主体とした相互主観性を基盤としたかかわりであること、さらにセルフマネジメンの概念を中核にした支援を行っていることが明らかになった。

4) フローチャートの作成が高度看護実践を明確化するために有効であると考え、認定看護師・専門看護師らとともに、実際に慢性疼痛の看護実践を行った事例を数例挙げ、事例を基盤とした教材・フローチャートの作成を行っている(進行中)。

5)「認知症高齢者への疼痛マネジメント」として考える際に、【高齢者】の身体を看ること(フレイルという身体特性を理解した上で薬物動態への注意ならびに栄養・運動の重要性を理解すること)と併せて、【認知機能障害】を正確にアセスメントする重要性、さらに在宅認知症高齢者の【疼痛アセスメントー評価】の特性を明確にすることができた。

これらの結果を基に、2023 年 7 月号コミュニティケア雑誌「認知症高齢者の苦痛・苦悩を軽減する～痛みのアセスメントと支援のポイント」としてまとめることができた。認知症高齢者の苦痛・苦悩を軽減するために、体-心-社会・環境面の側面からア

セスメントし、コンフォート（Comfort）の状態を提供することでニードを満たすことは、看護学の根幹である。今後は本研究で得られた知見を基に教材・フローチャートの作成を行うことで、日本語版 DOLOPLUS-2 臨床への普及を継続する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 高橋 文代，小菅 紀子，伊藤 智恵子，澤瀬 早苗，鈴木 晶子，多田 信子，畑 千晶，安藤 千晶	４．巻 40
２．論文標題 慢性の痛みと共に生活する男性高齢者を支えた訪問看護実践　ケアリングとしての傾聴と手当てによるケアの一事例から	５．発行年 2021年
３．雑誌名 慢性疼痛	６．最初と最後の頁 88－92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Chiaki Ando, Yusuke Kanno, Osamu Uchida, Emiko Nashiki, Noriko Kosuge, Asao Ogawa	４．巻 -
２．論文標題 Pain management community-dwelling older adults with moderate-to-severe dementia: Visiting nurses' knowledge, belief, and related factors.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 International Journal of Palliative Nursing.	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 安藤千晶，菅野雄介，鈴木晶子，高橋文代，小川朝生	４．巻 14(2)
２．論文標題 訪問看護師が実施している 在宅認知症高齢者の疼痛マネジメント	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Palliative Care Research	６．最初と最後の頁 151-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 安藤千晶
２．発表標題 痛みセンター看護師が実施しているフレイル高齢者への慢性痛セルフマネジメント支援
３．学会等名 第51回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Chiaki, ANDO-OHMURA
２．発表標題 Pain management in community-dwelling older adults with dementia
３．学会等名 International Conference on DEMENTIA AND DEMENTIA CARE（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 高橋文代,，小菅 紀子，伊藤 智恵子，澤瀬 早苗，鈴木 晶子，多田 信子，畑 千晶，安藤 千晶
２．発表標題 事例からみた訪問看護における高齢者の非がん性慢性疼痛看護の実際
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Chiaki Ando
２．発表標題 A Survey on the Actual Situation of Pain Management Performed by Home-Visiting Nurses for Geriatric Patients with Moderate-to-Severe Dementia.
３．学会等名 The Second Tohoku Conference on Global Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ando,C., Kanno,Y. ,Uchida,O., Nashiki,E., Kosuge,N., Ogawa,A.
２．発表標題 Investigation of visiting nurses’ difficulties and affecting factors for pain management for community-dwelling moderate-to-severe dementia patients
３．学会等名 The 6ht International Nursing Research Coference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 安藤千晶，菅野雄介，高橋文代，鈴木晶子
２．発表標題 訪問看護師が捉える在宅認知症高齢者の痛みのマネジメントの困難点とその工夫
３．学会等名 第7回日本在宅看護学会学術集会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 認知症高齢者の苦痛・苦悩を軽減する　～痛みのアセスメントと支援のポイント～	４．発行年 2023年
２．出版社 日本看護協会出版会	５．総ページ数 8
３．書名 コミュニティケア　7月号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	尾崎　章子 (Ozaki Akiko) (30305429)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関